

地域課題・目指す将来像

地域課題

- 嬉野市待望の西九州新幹線の開業効果を最大限活かすには、現状の「旅ナカ」中心の情報発信に加え、「旅マエ」の興味喚起、「旅アト」の再訪問喚起に繋がる情報発信が必要
- 来訪者の移動支援に向けては、現状の公共交通ネットワークに加え、「旅ナカ」の情報収集、回遊喚起に繋がる新たなモビリティが必要
- 新幹線開業後の新たな観光戦略の検討には、来訪者の観光ニーズや観光行動履歴に関するデータ収集や分析システムの構築が必要

将来像

- 観光産業の落込みは、地域産業（お茶、陶器等）の低迷、さらには、若者の域外流出にも繋がり、新たな高速交通体系の開業を契機に、未来技術を活用した観光まちづくりへの取り組みを進めることで、既存産業の再生・新産業の創出、人口減少の抑制と交流人口の増加を目指す

推進体制

名称：嬉野市未来技術地域実装協議会

嬉野の魅力为全国・全世界に発信する環境づくり・プロジェクトチーム (PT I)
来訪者の移動を支えるモビリティサービス・プロジェクトチーム (PT II)

地方公共団体	嬉野市、佐賀県
国 (★は現地支援責任者)	国土交通省 (★九州地方整備局、九州運輸局)、警察庁 (交通局)、総務省 (九州総合通信局)、文部科学省 (科学技術・学術政策局)
大学	久留米工業大学
民間事業者	嬉野市商工会、嬉野温泉観光協会、嬉野温泉旅館組合、駅前開発事業者、交通事業者

課題解決に向けた取組

① 嬉野の魅力为全国・全世界に発信する環境づくり【VR/AR】

- ・ デジタルモール・バーチャルモールの構築・コンテンツ作成

② 来訪者の安心な移動を支えるモビリティサービス【自動運転】

- ・ 拠点内移動を支えるパーソナルモビリティ・新駅と温泉街を結ぶ自動運転サービス

③ 地域課題等の解消に向けたデータプラットフォームの利活用【AI、IoT】

- ・ 地域課題等の解消に向けたデータプラットフォームシステムの構築

新たな交通・観光拠点 (嬉野温泉駅・道の駅)

未来技術が新型コロナウイルス禍に負けない観光の街をつくることを、ここ「嬉野」で実践!

新地域交流施設=バーチャル拠点

中心市街地 (嬉野温泉街・食・遊興)

嬉野温泉

うれしの茶

温泉湯豆腐

聴前吉田焼

塩田津

うれしのあつたが祭り

<実践する3つの取り組み(案)>

- (1) 嬉野の魅力为全国・全世界に発信する魅力づくり
- (2) 来訪者の移動を支えるモビリティサービス
- (3) 5G技術等を活用した各種データ収集・提供

① 嬉野の魅力为全国・全世界に発信する環境づくり【VR/AR】

取組内容

- 新幹線開業時（2022年9月）に運用開始した「LINE公式アカウント」「デジタルモール」「バーチャルモール」の機能を拡充する実証を実施（2023年7月～）
 - 「LINE公式アカウント」ではLINEサービスを活用し、地元商店街と連携したスタンプラリーの実証を実施。7月29日～8月5日の土曜夜市期間にスタンプラリー実施、参加者349人
 - 「デジタルモール」では構築した嬉野メタバース内で、嬉野温泉夏祭りの花火大会に関するライブ配信（8月11日に実施）や、駅前のリアル空間で開催されるマルシェを対象にバーチャル空間内で楽しめるECマルシェ（1月末～2月中旬の“あったかまつり”の期間に実施）の実証を実施
 - 花火大会のライブ配信時には、嬉野メタバースに2,400人がアクセスし、嬉野を離れた方にも故郷の一時を楽しんで頂いた効果を確認。また、ライブ配信時のメタバースへの入室は、LINEからの入室が多く、情報発信に向けたLINEの効果を確認
 - 「バーチャルモール」では旅館やホテルの大浴場を360°カメラで撮影、温泉の魅力伝える動画コンテンツを拡充

▶スタンプラリーのチラシ



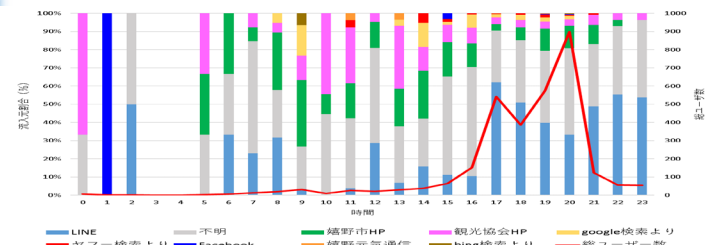
▲バーチャル上で楽しめるECマルシェの実証



▲デジタルモールへのアクセス数の推移



▲花火大会のライブ配信



▲花火大会時のデジタルモールへの流入元媒体

② 来訪者の安心な移動を支えるモビリティサービス【自動運転】

取組内容

➤ 実証ルートを確認する市民・関係者によるルート体験会を実施（2023年7月）

- 実証の開始に当たり、中心部商店街区間を中心に、並行する道路区間も含め、市民・関係者による実証ルートを決めるルート体験会を実施
- 参加者57人の意見を踏まえ、地元商店街を走行するルートを実証ルートに決定



▲ルート体験会の実施状況

➤ 自動運転モビリティ「NAVYA ARMA」を使用した試乗体験会を実施（2023年9月～10月）

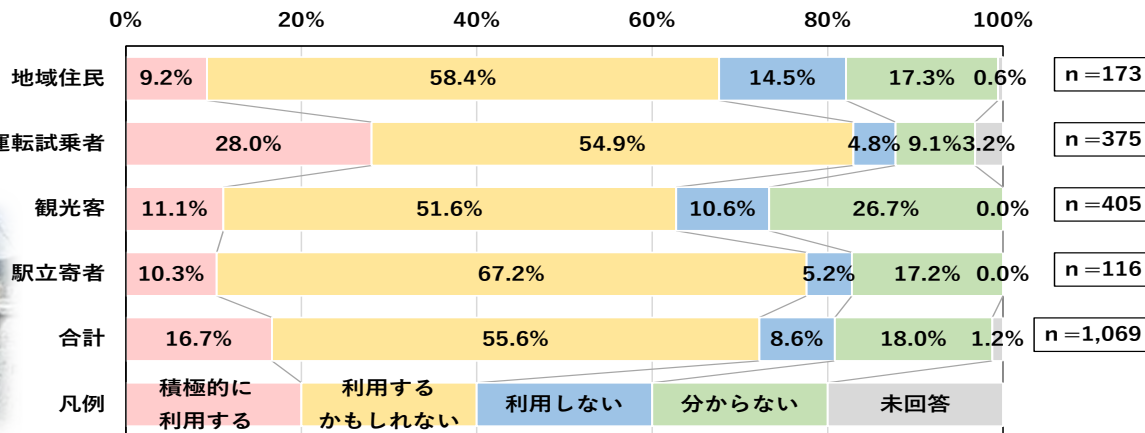
- 令和5年9月25日～10月9日までの15日間、嬉野温泉駅～バスセンター間の公道で自動運転サービスの試乗体験会を、嬉野イメージのラッピングを施した車両を用いて実施
- 延べ860人が参加し、アンケートによると、7割以上の方から「今後の利用意向」が確認されるとともに、実証ルートになった商店街区間では約7割の方が「新たなモビリティが必要」との必要性を確認

➤ 「AI対話型自動運転パーソナルモビリティ」を使用した試乗体験会を実施（2023年10月）

- 令和5年10月2日～10月9日までの8日間、駅前の歩行空間を対象にパーソナルモビリティの試乗体験会を実施。
- 参加者は53人と少なかったものの、約9割の方から「今後の利用意向」を確認



▲体験試乗会のルートと実験車両



▲自動運転サービスの利用意向に関するアンケート調査結果